



パブリッククラウドでのハイアベイラビリティのためのフェールオーバー

この章では、Microsoft Azure などのパブリッククラウド環境で ASA 仮想のハイアベイラビリティを実現できるようにアクティブ/バックアップフェールオーバーを設定する方法について説明します。

- [パブリッククラウドでのフェールオーバーについて \(1 ページ\)](#)
- [パブリッククラウドでのフェールオーバーのライセンス \(7 ページ\)](#)
- [パブリッククラウドでのフェールオーバーのデフォルト \(7 ページ\)](#)
- [Microsoft Azure での ASA 仮想ハイアベイラビリティについて \(8 ページ\)](#)
- [アクティブ/バックアップフェールオーバーの設定 \(11 ページ\)](#)
- [オプションのフェールオーバーパラメータの設定 \(13 ページ\)](#)
- [アクティブ/バックアップフェールオーバーの有効化 \(18 ページ\)](#)
- [パブリッククラウドでのフェールオーバーの管理 \(21 ページ\)](#)
- [パブリッククラウドでのフェールオーバーのモニター \(23 ページ\)](#)
- [パブリッククラウドでのフェールオーバーの履歴 \(24 ページ\)](#)

パブリッククラウドでのフェールオーバーについて

冗長性を確保するために、ASA 仮想をアクティブ/バックアップハイアベイラビリティ (HA) 設定でパブリッククラウド環境に展開します。パブリッククラウドでの HA では、アクティブな ASA 仮想の障害時に、バックアップ ASA 仮想へのシステムの自動フェールオーバーをトリガーできるステートレスなアクティブ/バックアップソリューションが実装されます。

次のリストは、HA パブリッククラウドソリューションの主要コンポーネントを示しています。

- **アクティブ ASA 仮想** : HA ピアのファイアウォールトラフィックを処理するように設定された HA ペア内の ASA 仮想。
- **バックアップ ASA 仮想** : ファイアウォールトラフィックを処理せず、アクティブ ASA 仮想に障害が発生した場合にアクティブ ASA 仮想を引き継ぐ HA ペア内の ASA 仮想。こ

これは、フェールオーバーの際にピアの識別情報を引き継がないため、スタンバイではなくバックアップと呼ばれます。

- **HA エージェント**：ASA 仮想上で実行され、ASA 仮想の HA ロール（アクティブ/バックアップ）を判断し、その HA ピアの障害を検出し、その HA ロールに基づいてアクションを実行する軽量プロセス。

物理 ASA および非パブリッククラウドの仮想 ASA では、Gratuitous ARP 要求を使用してフェールオーバー条件を処理しますが、バックアップ ASA は、アクティブな IP アドレスと MAC アドレスに関連付けられていることを示す Gratuitous ARPP を送信します。ほとんどのパブリッククラウド環境では、このようなブロードキャストトラフィックは許可されていません。このため、パブリッククラウドの HA 設定では、フェールオーバーが発生したときに通信中の接続を再起動する必要があります。

アクティブ装置の状態がバックアップ装置によってモニターされ、所定のフェールオーバー条件に一致しているかどうかを判別されます。所定の条件に一致すると、フェールオーバーが行われます。フェールオーバー時間は、パブリッククラウドインフラストラクチャの応答性に応じて、数秒～1分を超える場合があります。

アクティブ/バックアップフェールオーバーについて

アクティブ/バックアップフェールオーバーでは、1台の装置がアクティブ装置です。この装置がトラフィックを渡します。バックアップ装置は積極的にトラフィックを渡したり、アクティブ装置と設定情報を交換したりしません。アクティブ/バックアップフェールオーバーでは、障害が発生した装置の機能をバックアップ ASA 仮想デバイスに引き継ぐことができます。アクティブ装置が故障すると、バックアップ状態に変わり、そしてバックアップ装置がアクティブ状態に変わります。

プライマリ/セカンダリの役割とアクティブ/バックアップステータス

アクティブ/バックアップフェールオーバーを設定する場合、1つの装置をプライマリとして設定し、もう1つの装置をセカンダリとして設定します。この時点で、2つの装置は、デバイスとポリシーの設定、およびイベント、ダッシュボード、レポート、ヘルスマonitoringで、2つの個別のデバイスとして機能します。

フェールオーバーペアの2つの装置の主な相違点は、どちらの装置がアクティブでどちらの装置がバックアップであるか、つまりどちらの装置がアクティブにトラフィックを渡すかということに関連します。両方の装置がトラフィックを渡すことができますが、プライマリ装置だけがロードバランサプローブに応答し、構成済みのルートをプログラミングしてルートの接続先として使用します。バックアップ装置の主な機能は、プライマリ装置の正常性を監視することです。両方の装置が同時にスタートアップした場合（さらに動作ヘルスが等しい場合）、プライマリ装置が常にアクティブ装置になります。

フェールオーバー接続

バックアップ ASA 仮想は、TCP を介して確立されたフェールオーバー接続を使用して、アクティブ ASA 仮想の正常性を監視します。

- アクティブ ASA 仮想は、リッスンポートを開くことで接続サーバーとして機能します。
- バックアップ ASA 仮想は、接続ポートを使用してアクティブ ASA 仮想に接続します。
- 通常、ASA 仮想装置間で何らかのネットワークアドレス変換が必要な場合を除き、リッスンポートと接続ポートは同じです。

フェールオーバー接続の状態によって、アクティブ ASA 仮想の障害を検出します。バックアップ ASA 仮想は、フェールオーバー接続が切断されたことを確認すると、アクティブ ASA 仮想で障害が発生したと判断します。同様に、バックアップ ASA 仮想がアクティブ装置に送信されたキープアライブメッセージに対する応答を受信しない場合も、アクティブ ASA 仮想で障害が発生したと判断します。

関連項目

ポーリングと Hello メッセージ

バックアップ ASA 仮想はフェールオーバー接続を介してアクティブ ASA 仮想に Hello メッセージを送信し、Hello 応答の返信を期待します。メッセージのタイミングには、ポーリング間隔、つまりバックアップ ASA 仮想装置が Hello 応答を受信して次の Hello メッセージが送信されるまでの間の時間間隔が使用されます。応答の受信は、ホールド時間と呼ばれる受信タイムアウトによって強制されます。Hello 応答の受信がタイムアウトすると、アクティブ ASA 仮想で障害が発生したとみなされます。

ポーリング間隔とホールド時間間隔は設定可能なパラメータです（[フェールオーバー基準とその他の設定の構成 \(13 ページ\)](#) を参照）。

起動時のアクティブ装置の判別

アクティブ装置は、次の条件で判別されます。

- 装置がブートされ、ピアがすでにアクティブとして動作中であることを検出すると、その装置はバックアップ装置になります。
- 装置がブートされてピアを検出できないと、その装置はアクティブ装置になります。
- 両方の装置が同時に起動された場合は、プライマリ装置がアクティブ装置になり、セカンダリ装置がバックアップ装置になります。

フェールオーバー イベント

アクティブ/バックアップ フェールオーバーでは、フェールオーバーがユニットごとに行われます。次の表に、各障害イベントに対するフェールオーバーアクションを示します。この表には、各フェールオーバー イベントに対して、フェールオーバー ポリシー（フェールオーバーまたはフェールオーバーなし）、アクティブ装置が行うアクション、バックアップ装置が行うアクション、およびフェールオーバー条件とアクションに関する特別な注意事項を示します。

表 1: フェールオーバー イベント

障害イベント	ポリシー	アクティブアクション	バックアップアクション	注
バックアップ装置がフェールオーバー接続のクローズを確認	フェールオーバー	適用対象外	アクティブになる アクティブに故障とマークする	これは標準のフェールオーバーの使用例です。
アクティブ装置がフェールオーバー接続のクローズを確認	フェールオーバーなし	バックアップを障害としてマークする	n/a	非アクティブ装置へのフェールオーバーは発生しません。
アクティブ装置がフェールオーバーリンクで TCP タイムアウトを確認	フェールオーバーなし	バックアップを障害としてマークする	動作なし	アクティブ装置がバックアップ装置から応答を受信しない場合、フェールオーバーは発生しません。
バックアップ装置がフェールオーバーリンクで TCP タイムアウトを確認	フェールオーバー	適用対象外	アクティブになる アクティブに故障とマークする アクティブ装置にフェールオーバー コマンドの送信を試行する	バックアップ装置はアクティブ装置が動作を続行できないと見なし、引き継ぎます。 アクティブ装置がまだ起動しているが時間内に応答を送信できない場合、バックアップ装置はフェールオーバー コマンドをアクティブ装置に送信します。
アクティブ認証の失敗	フェールオーバーなし	動作なし	動作なし	バックアップ装置はルートテーブルを変更するため、バックアップ装置が Azure に認証する必要がある唯一の装置になります。 アクティブ装置が Azure に認証されているかどうかは関係ありません。

障害イベント	ポリシー	アクティブアクション	バックアップアクション	注
バックアップ認証の失敗	フェールオーバーなし	バックアップを未認証としてマークする	動作なし	バックアップ装置が Azure に認証されていない場合、フェールオーバーは発生しません。
アクティブ装置が意図的なフェールオーバーを開始	フェールオーバー	バックアップになる	アクティブになる	アクティブ装置は、フェールオーバーリンク接続を閉じることでフェールオーバーを開始します。 バックアップ装置は接続のクローズを確認し、アクティブ装置になります。
バックアップ装置が意図的なフェールオーバーを開始	フェールオーバー	バックアップになる	アクティブになる	バックアップ装置は、フェールオーバーメッセージをアクティブ装置に送信することによってフェールオーバーを開始します。 アクティブ装置はメッセージを確認すると、接続を閉じてバックアップ装置になります。 バックアップ装置は接続のクローズを確認し、アクティブ装置になります。
以前にアクティブであったユニットの復旧	フェールオーバーなし	バックアップになる	片方をバックアップとマークする	フェールオーバーは確実に必要でない限り発生しません。
アクティブ装置がバックアップ装置からのフェールオーバーメッセージを確認する	フェールオーバー	バックアップになる	アクティブになる	ユーザーが手動フェールオーバーを開始した場合に発生する可能性があります。または、バックアップ装置が TCP タイムアウトを確認したが、アクティブ装置がバックアップ装置からメッセージを受信できる場合に発生する可能性があります。

注意事項と制約事項

この項では、この機能のガイドラインと制限事項について説明します。

パブリッククラウドでハイアベイラビリティを実現するための ASA 仮想のフェールオーバー冗長性を確保するために、ASA 仮想をアクティブ/バックアップハイアベイラビリティ (HA) 設定でパブリッククラウド環境に展開します。

- Microsoft Azure パブリッククラウドでのみサポートされています。ASA 仮想 VM を設定する場合、サポートされる vCPU の最大数は 16、サポートされる最大メモリ容量は 64GB RAM です。サポートされるインスタンスの包括的なリストについては、『ASA 仮想 Getting Started Guide』を参照してください。
- アクティブ ASA 仮想で障害が発生したときにバックアップ ASA 仮想へのシステムの自動フェールオーバーをトリガーできる、ステートレスなアクティブ/バックアップソリューションを実装します。

制限事項

- フェールオーバーはミリ秒ではなく、秒単位で行われます。
- HA の役割の決定と HA 装置として参加できるかどうかは、HA ピア間、および HA 装置と Azure インフラストラクチャとの間の TCP 接続に依存します。ASA 仮想が HA 装置として参加できない状況がいくつかあります。
 - HA ピアへのフェールオーバー接続を確立できない。
 - Azure から認証トークンを取得できない。
 - Azure で認証できない。

- アクティブ装置からバックアップ装置に設定が同期されることはありません。フェールオーバートラフィックの処理に関して、各装置で同様の設定を個々に構成する必要があります。

- フェールオーバー ルートテーブルの制限

パブリッククラウドの HA のルートテーブルには次の制限があります。

- 設定できるルートテーブルの数は最大 16 個です。
- ルートテーブルで設定できるルートは最大 64 個です。

いずれの場合も、制限に達すると、ルートテーブルまたはルートを削除して再試行することを推奨するアラートが表示されます。

- ASDM サポートはありません。
- IPSec リモートアクセス VPN はサポートされていません。



-
- (注) パブリッククラウドでサポートされる VPN トポロジについては、『Cisco Adaptive Security Virtual Appliance (ASAv) Quick Start Guide』を参照してください。
-

- ASA 仮想の VM インスタンスは、同じ可用性セットにある必要があります。Azure の現在の ASA 仮想 ユーザーである場合、既存の展開から HA にアップグレードすることはできません。インスタンスを削除し、Azure マーケットプレイスから ASA 仮想 4 NIC HA オフリングを展開する必要があります。

パブリッククラウドでのフェールオーバーのライセンス

ASA 仮想はシスコスマートソフトウェアライセンシングを使用しています。スマートライセンスは、通常の操作に必要です。各 ASA 仮想は、ASA 仮想プラットフォームライセンスを使用して個別にライセンスを取得する必要があります。ライセンスをインストールするまで、スループットは 100 Kbps に制限されるため、予備接続テストを実行できます。ASA 仮想の正確なライセンス要件については、『[Cisco ASA シリーズの機能ライセンス](#)』ページを参照してください。

パブリッククラウドでのフェールオーバーのデフォルト

デフォルトでは、フェールオーバーポリシーは次の事項が含まれます。

- ステータスレスなフェールオーバーのみ。
- フェールオーバートラフィックの処理に関して、各装置で同様の設定を個々に構成する必要があります。
- フェールオーバーの TCP 制御ポート番号は 44442 です。
- Azure ロードバランサの健全性プローブポート番号は 44441 です。
- 装置のポーリング時間は 5 秒です。
- 装置のホールド時間は 15 秒です。
- ASA 仮想はプライマリインターフェイス（管理 0/0）のヘルスプローブに応答します。
- Azure サービスプリンシパルによる ASA 仮想の認証は、プライマリインターフェイス（管理 0/0）で実行されます。



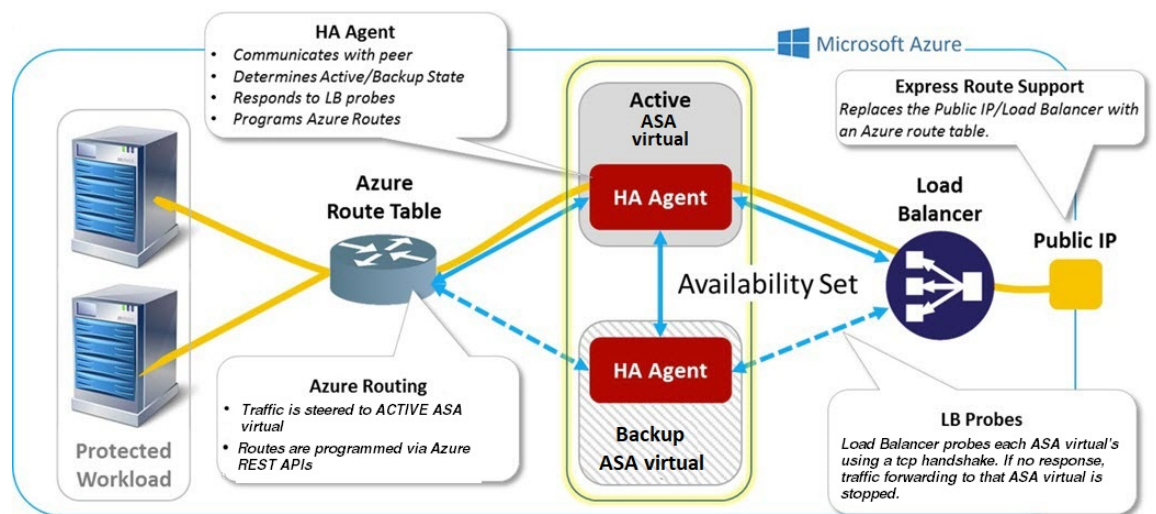
(注) フェールオーバーポート番号、ヘルスプローブポート番号、ポーリング時間、およびプライマリインターフェイスを変更するオプションについては、[オプションのフェールオーバーパラメータの設定 \(13 ページ\)](#) を参照してください。

Microsoft Azure での ASA 仮想 ハイアベイラビリティについて

次の図に、Azure での ASA 仮想 HA 展開の概要を示します。アクティブ/バックアップ フェールオーバー設定の2つの ASA 仮想インスタンスの背後でワークロードが保護されます。Azure ロードバランサは、3 ウェイ TCP ハンドシェイクを使用して両方の ASA 仮想ユニットをプローブします。アクティブ ASA 仮想は、3 ウェイハンドシェイクを完了して正常であることを示しますが、バックアップ ASA 仮想は意図的に応答しません。ロードバランサに正常でないことで、バックアップ ASA 仮想はロードバランサには正常ではないように見え、トラフィックが送信されません。

フェールオーバーでは、アクティブ ASA 仮想がロードバランサプローブへの応答を停止し、バックアップ ASA 仮想が応答を開始することで、すべての新しい接続がバックアップ ASA 仮想に送信されます。バックアップ ASA 仮想は、ルートテーブルを変更してトラフィックがアクティブユニットからバックアップユニットにリダイレクトされるように API 要求を Azure ファブリックに送信します。この時点で、バックアップ ASA 仮想がアクティブユニットになり、アクティブユニットは、フェールオーバーの理由に応じてバックアップユニットになるかオフラインになります。

図 1: Azure での ASA 仮想 HA 展開



自動的に API 呼び出しによって Azure ルートテーブルが変更されるようにするには、ASA 仮想 HA ユニットに Azure Active Directory のログイン情報が必要です。Azure は、簡単に言えばサービスアカウントであるサービスプリンシパルの概念を採用しています。サービスプリンシパルを使用すると、あらかじめ定義された Azure リソースセット内でタスクを実行するのに十分な権限と範囲のみを持つアカウントをプロビジョニングできます。

ASA 仮想 HA 展開でサービスプリンシパルを使用して Azure サブスクリプションを管理できるようにするには、次の 2 つの手順を実行します。

1. Azure Active Directory アプリケーションとサービスプリンシパルを作成します ([Azure サービスプリンシパルについて \(9 ページ\)](#) を参照)。
2. サービスプリンシパルを使用して Azure で認証するように ASA 仮想 インスタンスを設定します (「[Azure サービスプリンシパル用の認証クレデンシャルの設定 \(15 ページ\)](#)」を参照)。

関連項目

[ロードバランサ](#)の詳細については、Azure のマニュアルを参照してください。

Azure サービスプリンシパルについて

Azure リソース (ルートテーブルなど) へのアクセスまたはリソースの変更が必要となるアプリケーションがある場合は、Azure Active Directory (AD) アプリケーションを設定し、必要な権限を割り当てる必要があります。この方法は、以下の理由から、自分のクレデンシャルでアプリケーションを実行するよりも推奨されます。

- 自分の権限とは異なる権限をアプリケーション ID に割り当てることができる。通常、割り当てる権限は、アプリケーションが実行する必要があるものだけに制限します。
- 職責が変わった場合でも、アプリケーションのクレデンシャルを変更する必要がない。
- 無人スクリプトの実行時に、証明書を使用して認証を自動化できる。

Azure ポータルに Azure AD アプリケーションを登録すると、アプリケーションオブジェクトとサービスプリンシパルオブジェクトの2つのオブジェクトが Azure AD テナントに作成されます。

- **アプリケーションオブジェクト** : Azure AD アプリケーションは、そのアプリケーションが登録されている Azure AD テナント (アプリケーションの「ホーム」テナント) にある唯一のアプリケーションオブジェクトによって定義されます。
- **サービスプリンシパルオブジェクト** : サービスプリンシパルオブジェクトは、特定のテナントでのアプリケーションの使用に関するポリシーと権限を定義し、アプリケーション実行時のセキュリティプリンシパルの基礎を提供します。

Azure は、『[Azure Resource Manager Documentation](#)』で Azure AD アプリケーションとサービスプリンシパルを作成する方法について説明しています。詳しい手順については、次のトピックを参照してください。

- [リソースにアクセスできる Azure AD アプリケーションとサービスプリンシパルをポータルで作成する](#)
- [Azure PowerShell を使用して資格情報でのサービスプリンシパルを作成する](#)



- (注) サービスプリンシパルを設定したら、**ディレクトリ ID**、**アプリケーション ID**、および**秘密鍵**を取得します。これらは、Azure 認証クレデンシアルを設定するために必要です ([Azure サービスプリンシパル用の認証クレデンシアルの設定 \(15 ページ\)](#) を参照)。

Azure での ASA 仮想ハイアベイラビリティの設定要件

[#unique_427unique_427_Connect_42_fig_cgx_dlh_h1b](#) で説明しているのと同じ設定を導入するには、以下が必要です。

- 次の Azure 認証情報 ([Azure サービスプリンシパルについて \(9 ページ\)](#) を参照)
 - ディレクトリ ID
 - Application ID
 - 秘密鍵
- 次の Azure ルート情報 ([Azure ルートテーブルの設定 \(17 ページ\)](#) を参照)。
 - Azure サブスクリプション ID
 - ルートテーブルリソースグループ
 - テーブル名
 - アドレスプレフィックス
 - ネクストホップアドレス。
- 次の ASA 設定 ([アクティブ/バックアップフェールオーバーの設定 \(11 ページ\)](#)、[パブリッククラウドでのフェールオーバーのデフォルト \(7 ページ\)](#) を参照)
 - アクティブ/バックアップ IP アドレス
 - HA エージェント通信ポート
 - ロードバランサのプロープポート
 - ポーリング間隔



- (注) プライマリ装置とセカンダリ装置の両方で基本のフェールオーバー設定を構成します。プライマリ装置からセカンダリ装置に設定が同期されることはありません。フェールオーバートラフィックの処理に関して、各装置で同様の設定を個々に構成する必要があります。

アクティブ/バックアップフェールオーバーの設定

アクティブ/バックアップフェールオーバーを設定するには、プライマリ装置とセカンダリ装置の両方で基本的なフェールオーバー設定を構成します。プライマリ装置からセカンダリ装置に設定が同期されることはありません。フェールオーバートラフィックの処理に関して、各装置で同様の設定を個々に構成する必要があります。

始める前に

- Azure 可用性セットで ASA 仮想 HA ペアを展開します。
- Azure サブスクリプション ID とサービスプリンシパルの Azure 認証クレデンシアルを含む、Azure 環境情報を入手します。

アクティブ/バックアップフェールオーバーのプライマリ装置の設定

この項の手順に従って、アクティブ/バックアップフェールオーバー構成のプライマリを設定します。この手順では、プライマリ装置でフェールオーバーをイネーブルにするために必要な最小のコンフィギュレーションが用意されています。

始める前に

- シングルコンテキストモードのシステム実行スペースで次の設定を行います。

例

次の例に、プライマリ/アクティブ装置のフェールオーバーパラメータを設定する方法を示します。

```
ciscoasa(config)# failover cloud unit primary
ciscoasa(config)# failover cloud peer ip 10.4.3.5 port 4444
ciscoasa(config)#
```

ここで入力するピア IP アドレスは、Cisco ASA Virtual HA ピア上の管理インターフェイスの IP アドレスであることが必要です。

次のタスク

必要に応じて、追加のパラメータを設定します。

- バックアップ装置の設定 ([アクティブ/バックアップフェールオーバーのセカンダリ装置の設定 \(12 ページ\)](#) を参照)。
- Azure 認証の設定 ([Azure サービスプリンシパル用の認証クレデンシアルの設定 \(15 ページ\)](#) を参照)。
- Azure ルート情報の設定 ([Azure ルートテーブルの設定 \(17 ページ\)](#) を参照)。

- 追加パラメータの確認（[フェールオーバー基準とその他の設定の構成（13 ページ）](#) を参照）。

アクティブ/バックアップフェールオーバーのセカンダリ装置の設定

この項の手順に従って、アクティブ/バックアップフェールオーバー構成でセカンダリ装置を設定します。この手順では、セカンダリ装置でフェールオーバーをイネーブルにするために必要な最小のコンフィギュレーションが用意されています。

始める前に

- シングル コンテキスト モードのシステム実行スペースで次の設定を行います。

手順

ステップ 1 この装置をバックアップ装置に指定します。

failover cloud unit secondary

ステップ 2 アクティブ IP アドレスをフェールオーバー リンクに割り当てます。

failover cloud peer ip ip-address [port port-number]

この IP アドレスは、HA ピアへの TCP フェールオーバー制御接続を確立するために使用されます。このポートは、すでにアクティブ装置である可能性がある HA ピアへのフェールオーバー接続を開こうとするときに使用されます。NAT が HA ピア間に配置されている場合は、ここでポートを設定する必要がある場合があります。ほとんどの場合は、ポートを設定する必要はありません。

ここで入力するピア IP アドレスは、Cisco ASA Virtual HA ピア上の管理インターフェイスの IP アドレスであることが必要です。

例

次の例に、セカンダリ/バックアップ装置のフェールオーバーパラメータを設定する方法を示します。

```
failover cloud unit secondary
failover cloud peer ip 10.4.3.4 port 4444
```

次のタスク

必要に応じて、追加のパラメータを設定します。

- Azure 認証の設定 ([Azure サービスプリンシパル用の認証クレデンシャルの設定 \(15 ページ\)](#) を参照)。
- Azure ルート情報の設定 ([Azure ルートテーブルの設定 \(17 ページ\)](#) を参照)。
- 追加パラメータの確認 ([フェールオーバー基準とその他の設定の構成 \(13 ページ\)](#) を参照)。

オプションのフェールオーバーパラメータの設定

必要に応じてフェールオーバー設定をカスタマイズできます。

フェールオーバー基準とその他の設定の構成

この項で変更可能な多くのパラメータのデフォルト設定については、[パブリッククラウドでのフェールオーバーのデフォルト \(7 ページ\)](#) を参照してください。

始める前に

- シングル コンテキスト モードのシステム実行スペースで次の設定を行います。
- プライマリ装置とセカンダリ装置の両方でこれらの設定を構成します。プライマリ装置からセカンダリ装置への設定の同期はありません。

手順

ステップ 1 HA ピアとの通信に使用する TCP ポートを指定します。

failover cloud port control *port-number*

例 :

```
ciscoasa(config)# failover cloud port control 4444
```

port-number 引数は、ピアツーピア通信に使用される TCP ポートの番号を割り当てます。

これにより、アクティブ装置のロール状態にあるときに接続を受け入れるフェールオーバー接続 TCP ポートが設定されます。これは、バックアップ ASA 仮想 が接続するアクティブ ASA 仮想 で開かれたポートです。

(注)

両方の HA ピアのデフォルト値である 4442 を維持することをお勧めします。一方の HA ピアのデフォルト値を変更する場合は、もう一方の HA 装置にも同じ変更を加えることをお勧めします。

ステップ 2 装置のポーリング時間およびホールド時間を変更します。

failover polltime *poll_time* [**holdtime** *time*]

例 :

```
ciscoasa(config)# failover polltime 10 holdtime 30
```

polltime の範囲は 1 ~ 15 秒です。hello パケットを受信できなかったときから装置が失敗としてマークされるまでの時間が、保持時間によって決まります。**holdtime** の範囲は 3 ~ 60 秒です。装置のポーリング時間の 3 倍に満たない保持時間は入力できません。ポーリング間隔を短くすると、ASA で障害を検出し、フェールオーバーをトリガーする速度が速くなります。ただし短時間での検出は、ネットワークが一時的に輻輳した場合に不要な切り替えが行われる原因となります。

ステップ 3 Azure ロード バランサの健全性プローブに使用される TCP ポートを指定します。

failover cloud port probe *port-number*

例 :

```
ciscoasa(config)# failover cloud port probe 4443
```

展開で Azure ロードバランサが使用されている場合、着信接続がアクティブ装置に送信されるように、アクティブ ASA 仮想 はロードバランサからの TCP プローブに応答する必要があります。

ステップ 4 Azure Load Balancer 正常性プローブのセカンダリインターフェイスを指定します。

failover cloud port probe *port-number interface if-name*

例 :

```
ciscoasa(config)# failover cloud port probe 4443 interface inside
```

クラウド HA で使用される TCP プローブの送信元 IP アドレス 168.63.129.16 です。このアドレスは、Azure の仮想パブリック IP アドレスです。このアドレスは、Azure DHCP パケットの送信元アドレスであり、Azure の DNS ネームサーバのアドレスです。

デフォルトでは、ASA 仮想 は、ASA ルートテーブルに従って、168.63.129.16 に到達可能なプローブに回答します。デフォルトルートが存在するため、最終的にプライマリインターフェイス (Management0/0) になります。

Management0/0 以外のインターフェイスでロードバランサをサポートするには、ポートプローブに別のインターフェイスを設定します。また、2 つのスタティックルートを設定する必要があります。1 つはプライマリインターフェイス用で、もう 1 つはロードバランサプローブ用に設定されたインターフェイス用です。

ステップ 5 プライマリインターフェイスとロードバランサプローブ用に設定されたインターフェイスのスタティックルートを追加します。

route *if-name dest_ip mask gateway_ip* [**distance**]

例 :

```
ciscoasa(config)# route outside 168.63.129.16 255.255.255.255 10.22.0.1 1
ciscoasa(config)# route inside 168.63.129.16 255.255.255.255 10.22.1.1 2
```

distance 引数は、ルートのアドミニストレーティブディスタンスです。値を指定しない場合、デフォルトは **1** です。アドミニストレーティブディスタンスは、複数のルーティングプロトコル間でルートを比較するのに使用されるパラメータです。宛先が同じルートが複数存在する場合 (168.63.129.16)、ルートのアドミニストレーティブディスタンスによってプライオリティが決まります。

アドミニストレーティブディスタンスが1のプライマリインターフェイス (外部) のスタティックルートは、168.63.129.16宛てのパケットの優先インターフェイスとしてプライマリインターフェイスを確立しますが、ロードバランサプローブ用に設定されたインターフェイスが168.63.129.16にパケットを送信できるようにします。

(注)

プローブに応答するメカニズムは、インターフェイス上にTCPソケットを作成することです。クラウドHAは168.63.129.16のルートルックアップを使用して、ソケットを作成するインターフェイスを決定します。デフォルトルートが存在するため、これが最終的にプライマリインターフェイスになります。プローブ用に設定されたインターフェイスのスタティックルートがないと、ASAはロードバランサから送信されたTCPパケットに応答しません。

Azure サービス プリンシパル用の認証クレデンシャルの設定

ASA 仮想 HA ピアが、Azure サービスプリンシパルを使用してルートテーブルなどの Azure リソースにアクセスしたり、それらのリソースを変更したりできるようにすることが可能です。Azure Active Directory (AD) アプリケーションを設定し、必要な権限を割り当てる必要があります。次のコマンドを使用すると、ASA 仮想はサービスプリンシパルを使用して Azure で認証されます。Azure サービスプリンシパルの詳細については、ASA 仮想クイックスタートガイドの「Azure」の章を参照してください。

始める前に

- シングル コンテキスト モードのシステム実行スペースで次の設定を行います。
- プライマリ装置とセカンダリ装置の両方でこれらの設定を構成します。プライマリ装置からセカンダリ装置への設定の同期はありません。

手順

ステップ 1 Azure サービス プリンシパルの Azure サブスクリプション ID を設定します。

failover cloud subscription-id *subscription-id*

例 :

```
(config)# failover cloud subscription-id ab2fe6b2-c2bd-44
```

Azure サブスクリプションIDは、クラウドHAユーザーが内部ルートをアクティブ装置に向ける場合など、Azure ルートテーブルを変更するために必要です。

ステップ2 Azure サービスプリンシパルのクレデンシャル情報を設定します。

```
failover cloud authentication {application-id | directory-id | key}
```

フェールオーバー中に Azure ルートテーブルを変更するには、Azure インフラストラクチャからアクセスキーを入手してからルートテーブルにアクセスする必要があります。アクセスキーは、HA ペアを制御する Azure サービスプリンシパルのアプリケーションID、ディレクトリID、および秘密鍵を使用して取得します。

ステップ3 Azure サービスプリンシパルのアプリケーションIDを設定します。

```
failover cloud authentication application-id appl-id
```

例：

```
(config)# failover cloud authentication application-id dfa92ce2-fea4-67b3-ad2a-6931704e4201
```

Azure インフラストラクチャからアクセスキーを要求するときは、このアプリケーションIDが必要です。

ステップ4 Azure サービスプリンシパルのディレクトリIDを設定します。

```
failover cloud authentication directory-id dir-id
```

例：

```
(config)# failover cloud authentication directory-id 227b0f8f-684d-48fa-9803-c08138b77ae9
```

Azure インフラストラクチャからアクセスキーを要求するときは、このディレクトリIDが必要です。

ステップ5 Azure サービスプリンシパルの秘密鍵IDを設定します。

```
failover cloud authentication key secret-key [encrypt]
```

例：

```
(config)# failover cloud authentication key 5yOhH593dtD/O8gzAlWgulrkWz5dH02d2Stk3LDbI4c=
```

Azure インフラストラクチャからアクセスキーを要求するときは、この秘密鍵が必要です。**encrypt** キーワードが存在する場合、秘密鍵は **running-config** で暗号化されます。

Azure ルートテーブルの設定

ルートテーブル設定は、ASA 仮想 がアクティブなロールを引き継ぐときに更新する必要のある Azure ユーザー定義ルートに関する情報で構成されています。フェールオーバーでは、内部ルートをアクティブ装置に向ける必要があります。アクティブ装置は、設定されたルートテーブル情報を使用して自動的にルートを自身に向けます。



(注) アクティブ装置とバックアップ装置の両方で Azure ルートテーブル情報を設定する必要があります。

始める前に

- シングル コンテキスト モードのシステム実行スペースで次の設定を行います。
- プライマリ装置とセカンダリ装置の両方でこれらの設定を構成します。プライマリ装置からセカンダリ装置への設定の同期はありません。
- Azure サブスクリプション ID とサービス プリンシパルの Azure 認証クレデンシアルを含む、Azure 環境情報を入手します。

手順

ステップ 1 フェールオーバー時に更新が必要な Azure ルートテーブルを設定します。

failover cloud route-table *table-name* [**subscription-id** *sub-id*]

例 :

```
ciscoasa(config)# failover cloud route-table inside-rt
```

(オプション) 2つ以上の Azure サブスクリプションでユーザー定義のルートを更新するには、**subscription-id** パラメータを含めます。

例 :

```
ciscoasa(config)# failover cloud route-table inside-rt subscription-id cd5fe6b4-d2ed-45
```

route-table コマンド レベルの **subscription-id** パラメータは、グローバル レベルで指定された Azure サブスクリプション ID をオーバーライドします。Azure サブスクリプション ID を指定せずに **route-table** コマンドを入力すると、グローバル **subscription-id** パラメータが使用されます。Azure サブスクリプション ID の詳細については、[Azure サービスプリンシパル用の認証クレデンシアルの設定 \(15 ページ\)](#) を参照してください。

(注)

route-table コマンドを入力すると、ASA 仮想 は **cfg-fover-cloud-rt** モードに切り替わります。

ステップ2 ルートテーブルに Azure リソースグループを構成します。

```
rg resource-group
```

例：

```
ciscoasa(cfg-fover-cloud-rt) # rg east-rg
```

Azure でのルートテーブルの更新要求にはリソースグループが必要です。

ステップ3 フェールオーバー時に更新が必要なルートを設定します。

```
route name route-name prefix address-prefix nexthop ip-address
```

例：

```
ciscoasa(cfg-fover-cloud-rt) # route route-to-outside prefix 10.4.2.0/24 nexthop 10.4.1.4
```

アドレスプレフィックスは、IPアドレスプレフィックス、スラッシュ（'/'）および数字のネットマスクとして設定されます。たとえば *192.120.0.0/16* などです。

例

全構成の例を次に示します。

```
ciscoasa(config) # failover cloud route-table inside-rt
ciscoasa(cfg-fover-cloud-rt) # rg east-rg
ciscoasa(cfg-fover-cloud-rt) # route route-to-outside prefix 10.4.2.0/24 nexthop 10.4.1.4

ciscoasa(config) # failover cloud route-table outside-rt
ciscoasa(cfg-fover-cloud-rt) # rg east-rg
ciscoasa(cfg-fover-cloud-rt) # route route-to-inside prefix 10.4.1.0/24 nexthop 10.4.2.4
```

アクティブ/バックアップフェールオーバーの有効化

アクティブ/バックアップフェールオーバーを有効にするには、プライマリ装置とセカンダリ装置の両方で設定を行う必要があります。プライマリ装置からセカンダリ装置に設定が同期されることはありません。フェールオーバートラフィックの処理に関して、各装置で同様の設定を個々に構成する必要があります。

アクティブ/バックアップフェールオーバーのプライマリ装置の有効化

この項の手順に従って、アクティブ/バックアップフェールオーバー構成のプライマリを有効にします。

始める前に

- シングルコンテキストモードのシステム実行スペースで次の設定を行います。

手順

ステップ1 フェールオーバーをイネーブルにします。

```
ciscoasa(config)# failover
```

ステップ2 システムコンフィギュレーションをフラッシュメモリに保存します。

```
ciscoasa(config)# write memory
```

例

次に、プライマリ装置の完全な設定の例を示します。

```
ciscoasa(config)# failover cloud unit primary
ciscoasa(config)# failover cloud peer ip 10.4.3.4

ciscoasa(config)# failover cloud authentication application-id
dfa92ce2-fea4-67b3-ad2a-693170
ciscoasa(config)# failover cloud authentication directory-id 227b0f8f-684d-48fa-9803-c08138
ciscoasa(config)# failover cloud authentication key 5yOhH593dtD/O8gzAWguH02d2STk3LDbI4c=
ciscoasa(config)# failover cloud authentication subscription-id ab2fe6b2-c2bd-44

ciscoasa(config)# failover cloud route-table inside-rt
ciscoasa(cfg-fover-cloud-rt)# rg east-rg
ciscoasa(cfg-fover-cloud-rt)# route route-to-outside prefix 10.4.2.0/24 nexthop 10.4.1.4

ciscoasa(config)# failover cloud route-table outside-rt
ciscoasa(cfg-fover-cloud-rt)# rg east-rg
ciscoasa(cfg-fover-cloud-rt)# route route-to-inside prefix 10.4.1.0/24 nexthop 10.4.2.4

ciscoasa(config)# failover
ciscoasa(config)# write memory
```

次のタスク

セカンダリ装置を有効にします。

アクティブ/バックアップフェールオーバーのセカンダリ装置の有効化

この項の手順に従って、アクティブ/バックアップフェールオーバー構成のセカンダリを有効にします。

始める前に

- シングルコンテキストモードのシステム実行スペースで次の設定を行います。

手順

ステップ1 フェールオーバーをイネーブルにします。

```
ciscoasa(config)# failover
```

ステップ2 システムコンフィギュレーションをフラッシュメモリに保存します。

```
ciscoasa(config)# write memory
```

例

次に、セカンダリ装置の完全な設定の例を示します。

```
ciscoasa(config)# failover cloud unit secondary
ciscoasa(config)# failover cloud peer ip 10.4.3.5

ciscoasa(config)# failover cloud authentication application-id
dfa92ce2-fea4-67b3-ad2a-693170
ciscoasa(config)# failover cloud authentication directory-id 227b0f8f-684d-48fa-9803-c08138
ciscoasa(config)# failover cloud authentication key 5y0hH593dtD/O8gzAWguH02d2STk3LDbI4c=
ciscoasa(config)# failover cloud authentication subscription-id ab2fe6b2-c2bd-44

ciscoasa(config)# failover cloud route-table inside-rt
ciscoasa(cfg-fover-cloud-rt)# rg east-rg
ciscoasa(cfg-fover-cloud-rt)# route route-to-outside prefix 10.4.2.0/24 nexthop 10.4.1.4

ciscoasa(config)# failover cloud route-table outside-rt
ciscoasa(cfg-fover-cloud-rt)# rg east-rg
ciscoasa(cfg-fover-cloud-rt)# route route-to-inside prefix 10.4.1.0/24 nexthop 10.4.2.4

ciscoasa(config)# failover
ciscoasa(config)# write memory
```

パブリッククラウドでのフェールオーバーの管理

この項では、フェールオーバーを有効にした後でクラウド内のフェールオーバー装置を管理する方法について説明します。ある装置から別の装置にフェールオーバーを強制的に変更する方法についても説明します。

フェールオーバーの強制実行

スタンバイ装置を強制的にアクティブにするには、次のコマンドを実行します。

始める前に

シングルコンテキストモードのシステム実行スペースで次のコマンドを使用します。

手順

ステップ 1 スタンバイ装置で入力した場合、フェールオーバーが強制実行されます。

failover active

例：

```
ciscoasa# failover active
```

スタンバイ装置はアクティブ装置になります。

ステップ 2 アクティブ装置で入力した場合、フェールオーバーが強制実行されます。

no failover active

例：

```
ciscoasa# no failover active
```

アクティブ装置はスタンバイ装置になります。

ルートの更新

Azure のルートの状態がアクティブロールの ASA 仮想と矛盾している場合は、次の EXEC コマンドを使用して ASA 仮想でルート更新を強制できます。

始める前に

シングルコンテキストモードのシステム実行スペースで次のコマンドを使用します。

手順

アクティブ装置のルートを更新します。

failover cloud update routes

例：

```
ciscoasa# failover cloud update routes
Beginning route-table updates
Routes changed
```

このコマンドは、アクティブロールの ASA 仮想でのみ有効です。認証に失敗すると、コマンド出力は Route changes failed となります。

Azure 認証の検証

Azure で ASA 仮想 HA の展開を成功させるには、サービスプリンシパルの設定が完全かつ正確である必要があります。適切な Azure 認証がないと、ASA 仮想ユニットはリソースにアクセスして、フェールオーバーを処理したりルート更新を実行したりできません。フェールオーバー設定をテストして、Azure サービスプリンシパルの次の要素に関連するエラーを検出できます。

- ディレクトリ ID
- Application ID
- Authentication Key

始める前に

シングル コンテキスト モードのシステム実行スペースで次のコマンドを使用します。

手順

ASA 仮想 HA 設定の Azure 認証要素をテストします。

test failover cloud authentication

例：

```
ciscoasa(config)# test failover cloud authentication
Checking authentication to cloud provider
Authentication Succeeded
```

認証に失敗すると、コマンド出力は Authentication Failed となります。

ディレクトリ ID またはアプリケーション ID が正しく設定されていない場合、Azure は認証トークンを取得するための REST 要求で指定されたリソースを認識しません。この条件エントリのイベント履歴は次のようになります。

```
Error Connection - Unexpected status in response to access token request: Bad Request
```

ディレクトリ ID またはアプリケーション ID は正しいが、認証キーが正しく設定されていない場合、Azure は認証トークンを生成する権限を許可しません。この条件エントリのイベント履歴は次のようになります。

```
Error Connection - Unexpected status in response to access token request: Unauthorized
```

パブリッククラウドでのフェールオーバーのモニター

この項では、フェールオーバー ステータスをモニターする方法について説明します。

フェールオーバー ステータス

フェールオーバー ステータスをモニターするには、次のいずれかのコマンドを入力します。

- **show failover**

装置のフェールオーバー状態についての情報を表示します。未設定の設定要素の値は *not configured* と表示されます。

ルート更新情報は、アクティブ装置に対してのみ表示されます。

- **show failover history**

タイムスタンプ、重大度レベル、イベントタイプ、およびイベントテキストを含むフェールオーバー イベントの履歴を表示します。

フェールオーバー メッセージ

フェールオーバーの syslog メッセージ

ASA は、深刻な状況を表すプライオリティ レベル 2 のフェールオーバーについて、複数の syslog メッセージを発行します。これらのメッセージを表示するには、syslog メッセージガイドを参照してください。Syslog メッセージの範囲は 1045xx と 1055xx です。



(注) フェールオーバーの最中に、ASA は論理的にシャットダウンした後、インターフェイスを起動し、syslog メッセージを生成します。これは通常のアクティビティです。

スイッチオーバー中に生成される syslog の例を次に示します。

```
%ASA-3-105509: (Primary) Error sending Hello message to peer unit 10.22.3.5, error:
Unknown error
%ASA-1-104500: (Primary) Switching to ACTIVE - switch reason: Unable to send message to
Active unit
%ASA-5-105522: (Primary) Updating route-table wc-rt-inside
%ASA-5-105523: (Primary) Updated route-table wc-rt-inside
%ASA-5-105522: (Primary) Updating route-table wc-rt-outside
%ASA-5-105523: (Primary) Updated route-table wc-rt-outside
%ASA-5-105542: (Primary) Enabling load balancer probe responses
%ASA-5-105503: (Primary) Internal state changed from Backup to Active no peer
%ASA-5-105520: (Primary) Responding to Azure Load Balancer probes
```

パブリッククラウドの導入に関連する各 `syslog` には、装置の役割が最初に追加されます ((Primary) または (Secondary))。

フェールオーバー デバッグ メッセージ

デバッグメッセージを表示するには、`debug fover` コマンドを入力します。詳細については、コマンドリファレンスを参照してください。



- (注) CPUプロセスではデバッグ出力に高プライオリティが割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムパフォーマンスに大きく影響することがあります。このため、特定の問題のトラブルシューティングを行う場合や、Cisco TAC とのトラブルシューティングセッションの間に限り `debug fover` コマンドを使用してください。

SNMP のフェールオーバー トラップ

フェールオーバーに対する SNMP `syslog` トラップを受信するには、SNMP トラップを SNMP 管理ステーションに送信するように SNMP エージェントを設定し、`syslog` ホストを定義し、お使いの SNMP 管理ステーションに Cisco `syslog` MIB をコンパイルします。

パブリッククラウドでのフェールオーバーの履歴

機能名	リリース	機能情報
Microsoft Azure でのアクティブ/バックアップフェールオーバー	9.8(200)	この機能が導入されました。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。